

中学校歴史教科書 自由社検定合格

藤沢市教育委員会 採択替えしないと決定

自由社の中学校歴史教科書は2019年度教科書検定(2020年3月結果発表)で405件の検定意見がつき同年度内に再申請ができない「一発不合格」になっていました。自由社は2020年6月に再申請。今回83件の検定意見を全て修正、2021年3月30日に合格が公表されました。同日、文部科学省は「令和4年度使用教科書の採択事務処理について(通知)」で中学校の教科書採択について次のように示しています。(要点)

- ア)採択替えを行うことができるのは、新たに発行されることとなった教科書の種目のみ
- イ)採択替えを行うか否かは、採択権者の判断によるべきもの
- ウ)採択している教科書又は新たに発行されることとなった教科書以外の教科書に採択替えすることも可能
- エ)教科書の採択に関する情報の積極的な公表に取り組み、採択に関する説明責任を果たすことが必要

この通知により、中学校の歴史教科書は、昨年に続き今年も採択を行うことができます。採択替えを行うか行わないかは市教育委員会などが決めることができます。

上記通知のウ)によれば、現在使用中の教科書や新たに加わった自由社だけでなく、育鵬社に採択替えることができます。逆に、育鵬社から他への採択替えも可能です。

みんなの教育・ふじさわネットは、5月19日、藤沢市の岩本教育長に『中学校歴史教科書の採択替えの可否については、学校の先生方や子どもたちが、混乱なく落ち着いて教育活動、学習に取り組めますよう配慮して、ご判断ください。』との要望書を提出しました。

藤沢市教育委員会は、5月21日の定例会で、採択替えは行わないと決定しました。委員は、「昨年、時間をかけて審議している。採択替えは先生方に大きな負担になる。採択替えは行わなくて良い」、「先生方の答申を参考に選んだ。使いにくいという声も聞いていない。負担軽くしたい」、「4月よりもう使用されている。長時間労働が問題となっている。さらに負担をかける必要はない。採択替えしない」、「現場の混乱を考えると、継続がいい」と発言。岩本教育長は委員の採択替えしないという一致した意見を受け、「ではまとめると採択替えはしない。」と結論しました。



藤沢市教育委員会会議
(藤沢市教育委員会 HP)

傍聴した人は、笑顔で、『ドキドキでしたが、ホッとしました。』

横浜市教委はこの夏に採択替え 昨年育鵬社から帝国書院に変更

横浜市教育委員会は、5月13日の定例会で、歴史の教科書の採択を再び行うと決定しました。昨年の採択は無記名投票で、歴史は帝国書院4票対育鵬社2票でした。昨年の採択で候補となった7社に、新たに自由社を加えた8社の教科書から、あらためて採択を行うことになります。

横浜教科書採択連絡会は昨年9月 HP で『横浜の採択が「教育」ではなく「政治」の道具にされてしまった現実、ようやく改善の兆しが見えたばかりです。子どもたちが主役の、公正で開かれた教科書採択のためには、まだまだ運動が必要です。今後ともご支援、ご協力ください』としています。

連帯し、注視しましょう。

藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会委員 ☆裏面「少人数学級」参照

No	氏名	選出区分	備考
1	稲垣 景子	学識経験者	藤沢市都市計画審議会委員
2	藤井 佳世	学識経験者	藤沢市教育振興基本計画策定委員会委員
3	渡邊 泰典	学識経験者	藤沢市教育振興基本計画策定委員会委員
4	新海 政雄	地域関係者	藤沢市地区社会体育振興協議会連合会会長
5	土居 秀彰	地域関係者	公益財団法人藤沢市みらい創造財団専務理事
6	村上 尚	地域関係者	社会福祉法人藤沢市社会福祉協議会事務局次長
7	鈴野 達也	保護者関係者	藤沢の子どもたちのためにつなげる会副代表
8	河内 幸恵	学校関係者	藤沢市立小学校長会代表 (駒寄小学校)
9	三浦 孝一	学校関係者	藤沢市立中学校長会代表 (高浜中学校)
10	志水 敦子	学校関係者	藤沢市立特別支援学校長 (白浜養護学校)

5月25日東京オリンピックについて要請書提出

藤沢市は、教育総務課長と東京オリンピック・パラリンピック開催準備室長の連名で、中学校長と白浜養護学校校長宛に「東京2020オリンピック聖火リレー サポートランナーの選出について（依頼）」（5月12日付）を出し、各校1名、計20名のサポートランナーを選出し、報告することを求めています。みんなの教育・ふじさわネットは、①コロナ感染拡大の危険がともなう中、子どもたちの命と健康にとって心配であること、②企業の論理を子どもたちの服装にまで押し付けること（※走る際の服装、靴、帽子は、東京2020大会オフィシャルスポンサーである「ASICS 社」製品か、他社の場合はロゴマークや刺しゅうをテープでかくすなどして見えなくするよう求めています）は、教育とはかけ離れていることから、再考し、命と健康を最優先に、(1)サポートランナー募集の中止、(2)子どもたちが参加するオリンピック関連諸行事の中止を求める要請書を市長・教育総務課長等に5月25日提出しました。

この要請書提出は、神奈川新聞、東京新聞、しんぶん赤旗で報道されました。（5月28日現在）



サポートランナー走行場所 6月28日(月)
セレブレーション会場(辻堂神社公園)

藤沢市教育委員会と懇談 みんなの教育・ふじさわネットは、5月17日、藤沢市教育委員会事務局と懇談し、少人数学級や児童生徒の東京オリンピックの行事参加、教科書採択、ICT教育等について話しあいました。

東京オリンピックに関する懇談

5月初めのタウン紙に、オリンピックのセーリング会場に飾るアサガオの種を植木鉢に植えている小学生の写真が紹介されていた。世界中がコロナに苦しめられている今、子どもたちは暑い夏に向け、コロナ感染と熱中症に気を付けて世話をする。付き添いの先生も子どもたちの健康管理に気を配る。子どもたちは修学旅行、宿泊学習をはじめ様々な学習が延期、中止にさせられている。

また、強制ではないが、聖火サポートランナーや、セーリング、ソフトボール大会の観戦など一部個人負担での参加を募っている。

市教育委員会はアサガオの種代をはじめ、諸々、オリンピック組織委員会にお任せのようだが、子どもの生命、安全確保、教員の配置などはぜひ責任をもって対処してほしい。

参加できる国、選手だけでの開催はオリンピックの精神から外れているし、緊急事態宣言が出され、医療体制が危機的な状況での開催は国民の生命、健康を守れない。

市、教育委員会はぜひ子どもを守る、先生方の健康を守ることを第一に考えてほしいと要望しました。
(小柳倫子)

少人数学級について懇談

藤沢市の少人数学級に向けた課題とその対策についてお聞きしました。

藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会のメンバーは今のところ10名程度だそうだ。5月21日の教育委員会諮問案件なので詳しくは聞けなかった。メンバーは学識経験者・地域住民・学校関係者・保護者とのこと。誰が選ばれるのか、できたら本当に学校現場のことがわかる人が選ばれてほしいと願う。☆表面に名簿

少人数学級にむけた市独自の方策は今のところ考えていないということです。短期的な課題として仮設校舎で対応していきたいという。長期的な課題は中学校も含めて検討委員会まちのようです。辻堂小などマンモス校はもう建てかえしかないのでは。

ともあれ小2は法改正になるので、標準法どおり正規職員対応になることはわかった。足りないときは臨時教員をあてるという。他都市では前倒しで中学校も含めて35人以下学級を実施するところが増えている。トップが声を上げない限り、藤沢市少人数学級版は実現できないのか。

ならばせめて小3は加配を活用しての少人数学級は可能だと思うし、実施してほしいと願う。それほど35人以上を超えているクラス数はマンモス校を除けば、たいしてないと思われる。子どもはどんどん成長していく。コロナ禍で行事は減らされさみしい思いをして耐えている子どもたちに、もっと手厚く手をさしのべてほしい。

「今年度はクラスの人数少なくてよかったよ。」と「あたりくじ」みたいでは困るのだ。（ちなみに私の長女は30人クラスで、次女は40人クラスの「はずれくじ」だったのだ。）
(遠藤玲子)